

養殖魚の筋肉内に見られる異物

養殖研究部 中野平二

養殖研究部では養殖魚や天然魚に発生する病気（魚病）の被害を低減させるため、魚病診断を行っています。通常魚病診断では細菌が原因の病気、ウイルスが原因の病気、寄生虫が原因の病気などを主に診断しています。

この診断の中で、魚病診断の依頼ではないのですが筋肉内の異物について、時々お尋ねがあります。今年は特に異物についてのお尋ねが多かったので、その2～3例を、ここで御紹介します。

■ ヒラマサ筋肉内の黒点

持ち込み日：平成23年4月7日

クレームの内容：ヒラマサの筋肉内に黒い点が見られました。

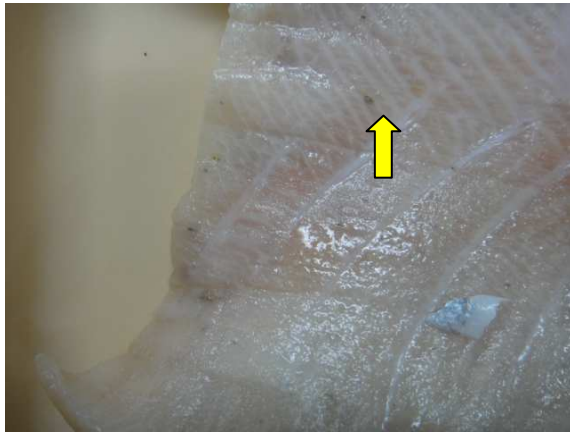


図1 筋肉内の黒点

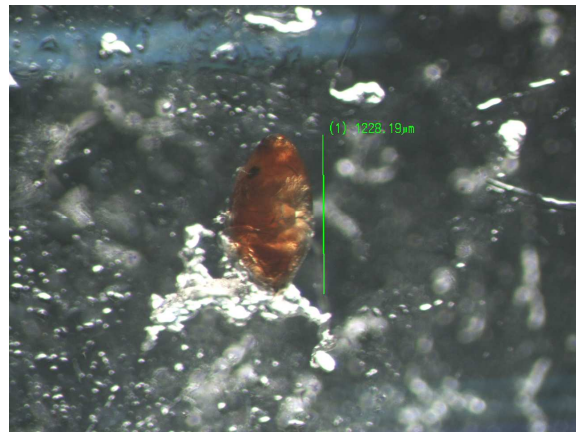


図2 取り出した黒点

診断結果：一見寄生虫に見えますが、黒点は顕微鏡で観察しても寄生虫に特有な構造がありませんでしたので、寄生虫とは考えらず、よく観察すると、無構造で、古い組織の跡と思われるものがありました。この点から体内の出血などが治癒した跡と推定しました。

■ ヒラマサ筋肉内の黒点2

持ち込み日：平成23年4月25日

クレームの内容：ヒラマサの筋肉内に黒い点が見られました。



図3 筋肉内の黒点

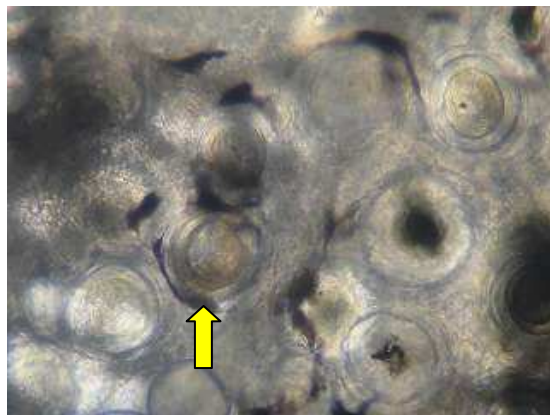


図4 黒点の拡大写真

診断結果：寄生虫（微胞子虫の仲間）が、筋肉内に寄生し、その後寄生された魚の生体防御反応で、黒く変色したと考えられました。なおこの寄生虫の人体への影響はありません。

■ ブリ切り身の変色

持ち込み日：平成 23 年 5 月 10 日

クレームの内容：ブリの切り身に赤っぽい点が見られました。

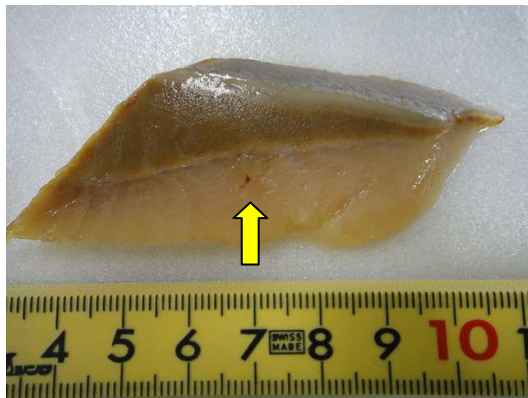


図5 筋肉内の変色

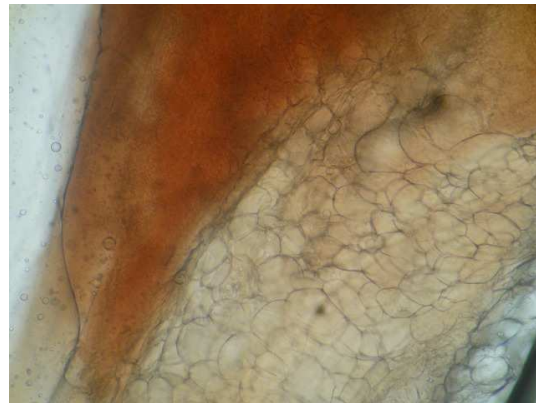


図6 変色箇所の拡大写真

診断結果：変色部分を顕微鏡で拡大して観察すると、赤血球由来と考えられる色素が見られました。この点から筋肉内に血液が何らかの原因で残ったものと判断しました。

■ ブリ筋肉内の異物

持ち込み日：平成 23 年 6 月 15 日

クレームの内容：ブリの切り身に白色の異物が見られました。

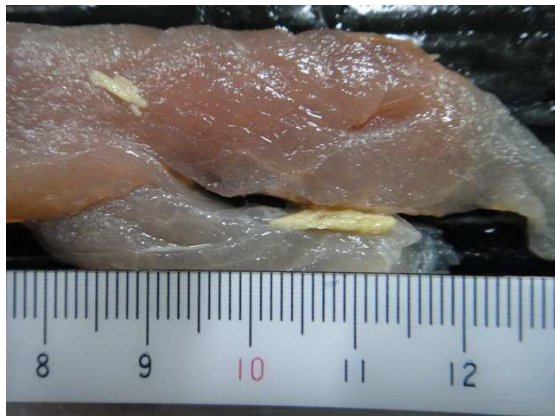


図7 筋肉内の白色異物

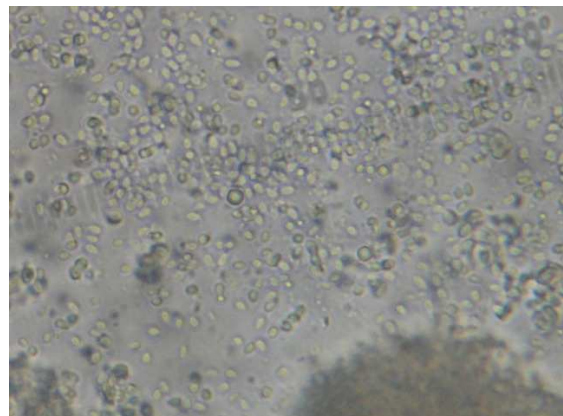


図8 異物の拡大写真

診断結果：白色部分を染色して顕微鏡観察したところ、微胞子虫が多数観察されました。このことから筋肉内の白色部分は微胞子虫の塊と判断されました。

このように、一言で異物といってもその原因には血液の固まったもの、寄生虫が原因のもの、原因不明のものとその原因はいろいろです。

ブリのように生産地で3枚におろされる場合は、消費者の目にとまることは少ないのですが、1尾そのまま流通する養殖魚の場合、消費者の目にとまり不安を感じられることが多いようです。いずれにしてもその原因を明らかにしなければ対処が難しくなりますので、今後異物を発見された場合、当センターに持ち込んでいただければ助かります。